



ワールドマスターズゲームズ2021関西

## 第2次総合実施計画書

### 概要版

ワールドマスターズゲームズ2021 関西 組織委員会  
2021年5月28日

大会開催までのロードマップ	・・・ 2
第1章 大会理念・大会づくりの基本姿勢	・・・ 3
第2章 大会概要	・・・ 4
第3章 大会の運営	・・・ 5
第4章 競技会の運営	・・・ 9
第5章 ボランティア	・・・ 11
第6章 開閉会式・交流の場	・・・ 12
第7章 安全対策・危機管理・医療救護	・・・ 14
第8章 誘客	・・・ 15
第9章 交通・宿泊・観光	・・・ 16
第10章 広報・報道	・・・ 18
第11章 企業協賛	・・・ 20
第12章 大会レガシーの創出	・・・ 20

## 【位置づけ】

大会延期に伴う1年の追加準備期間を最大限にいかした取組や選択と集中による事業の見直し等を踏まえ、改めて、大会機能ごとに今後の実施すべき取組等を体系的に提示。組織委員会と実行委員会が一体的に大会準備を推進し、実行するためのガイドラインとして活用

# 大会開催までのロードマップ

大会の骨格の決定  
・事業計画・収支計画  
・第二次総合実施計画

コロナの状況・エントリー状況を踏まえた  
事業計画・収支計画の見直し・事業の再構築

大会本番に向けた準備の本格化

2021年度											2022年度		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
	★1年前			★オリンピック(7/23~8/8)		★200日前				★100日前			
				★パラリンピック(8/24~9/5)									
	●エントリー再開(5/13)												
	●エントリーシステムでの個人ボランティア受付再開(5/13~9/30)												
	●WMG2021関西特別体験プラン受付再開												
	●宿泊予約サイト受付再開												
	●理事会で開閉会式会場決定												
				●オリンピック終了から 200日前にかけて集中PR ・メダルデザインの公表 ・新TVCMの放映 ・新ビジュアルの作成等									
								●WMG. ステーションの運用開始(テスト)					
								●開閉会式の式典プログラム					
								●広域シャトルバスの運行情報の発信					
								●団体・個人ボランティア受付締切(~10/31) ※募集状況によって延長の場合あり					
								●200日前節目イベント					
										●100日前集中PR (エントリー締切直前)			
													●エントリー締切(2/28)

大  
会  
本  
番

## 第1章 大会理念・大会づくりの基本姿勢

本大会は、①「**アジア初の開催**」、②関西エリアを開催地とする「**初の広域開催**」、③5万人の目標選手数と2週間を超える大会期間の設定による「**過去最大規模**」の大会、④ラグビーワールドカップ2019と東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に続く「**大規模国際スポーツ大会の連続開催**」と、これまでの大会にない**大きな特徴を持つ歴史的な大会**である。

組織委員会と府県政令市実行委員会、開催市町等実行委員会、関係団体は、大会基本理念及び大会テーマの実現に向け、**インクルーシブな考え方に基づく大会づくり**、ポストコロナ社会における新たな取組など、開催1年延期によって生じた追加準備期間を最大限にいかし、**本計画に基づき円滑な大会準備と運営を着実に推進**する。

また、大会づくりにあたっては、生涯スポーツ社会の実現や関西・日本の文化・産業の活性化、地域の創生など、**後世に成果を引き継ぐためのレガシーの創出**についても重要な要素とし、これらを積極的に推し進めていく。

### ■大会基本理念

一人ひとりの挑戦と多様な交流の和をつなげ、地域の独自性や日本の伝統・文化を世界に発信し、次世代に夢をおくる生涯スポーツの祭典を創出する。

### ■大会テーマ

スポーツ・フォーライフの開花  
(The Blooming of Sports for Life)

### ■大会コンセプト

- |                                |       |                                   |       |
|--------------------------------|-------|-----------------------------------|-------|
| ① 個人（個性が輝く）<br>一人ひとりの挑戦と可能性を開く | 「晴」舞台 | ④ 世界（グローバルを体感する）<br>国際的に溢れ感動を共有する | 「大」舞台 |
| ② 交流（多様性が交わる）<br>世代・地域・文化がつながる | 「表」舞台 | ⑤ 未来（将来に伝える）<br>次世代にエネルギーと躍動感をおくる | 「夢」舞台 |
| ③ 文化（関西を魅せる）<br>関西の魅力と文化を発揮する  | 「華」舞台 |                                   |       |



### ■大会基本姿勢（大会基本理念の実現に向けた基本姿勢）

- ・ 元気で活力ある生涯スポーツ社会の実現
- ・ 多様な交流を通じた相互理解の増進
- ・ オールジャパン体制で関西圏による広域開催
- ・ 2019-2021年国際スポーツ大会の連携開催
- ・ アジア諸国との協力開催
- ・ 「はなやか関西」の世界への発信
- ・ 日本を代表する文化を発信するための取組を幅広く展開
- ・ スポーツ力を通じて安全・安心で活力ある日本・関西を世界へ発信
- ・ マスターズスポーツムーブメントの推進
- ・ プレイヤーズファーストの実現

### 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症対策は、強い感染力と病状の深刻化を及ぼす変異株の発生など、予断を許さないが、国内外におけるワクチン接種の普及をはじめ科学的な知見は日々進展しており、大会開催時における感染状況は容易に想定しづらい。

このため、本計画では、WMGの本旨である「参加者同士・参加者と地域との交流やスポーツツーリズムの実現」を達成でき得る感染状況であることを前提としている。

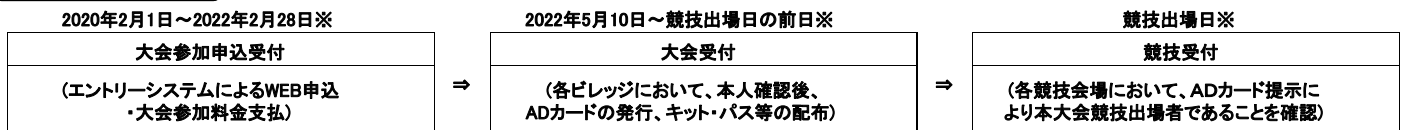
「ワールドマスターズゲームズ2021関西 新型コロナウイルス感染症対策実施指針」の改訂や各種運営マニュアルの策定等を通じて、その具体化を図っていく。



## 第3章 大会の運営

本大会は組織委員会、府県政令市実行委員会等の複数主体により実施体制を構築することから、各組織の役割や責任を明確にし、必要な大会機能を業務内容に応じて適切な場所に設置し、円滑な運営と参加者にストレスなく楽しむことができる大会を実現する。

### 受付



※アーリーエントリー(2020/1/6)等例外あり

※大会延期に伴うシステム更新のため2021/03/23-2021/5/12一旦停止

なお、開会式典(2022/5/13)への参加権は全ての大会参加者に付与される

※サポーター区分での申込者は、「大会参加申込受付」後、「大会受付」を経て大会参加となり、競技出場者、競技関係者(コーチ等)での申込者は、「大会参加申込受付」後、「大会受付」並びに「競技受付」を経て大会の参加となる。

### 現状と今後の取組

○…現状 ●…今後の取組

#### 【大会参加申込受付】

- 大会HPのエントリーシステムから必要な情報を入力して行う。2020年1月6日からTDSPポータルサイト登録者を対象に受付開始。2月1日から本エントリーの受付開始。大会延期に伴い、システム改修等のため、2021年3月1日～5月12日に一旦停止し、5月13日に再開した。
- 競技要項改正にかかるシステム改修や企業等からの団体エントリー対応、イレギュラー、キャンセル対応のほか、大会参加者向けの情報発信を行い安定したシステム運用を行う。

#### 【大会受付】※臨時大会受付…競技会場が各ビレッジから遠距離にある場合に設ける受付会場

- 大会受付業務に要する1名あたりの所要時間のシミュレーションを実施、会場毎の受付想定人数に合わせたレイアウトや人員配置計画を作成した。
- 各競技のエントリー状況を踏まえ、窓口数や配置人員を精査し、人員を配置。スタッフ向けマニュアルを作成するとともに、受付に必要な備品を精査し、調達する。

### 案内

大会参加者に分かりやすい情報を提供するため、以下の案内機能を設ける。

- ・メール(HPデスク)・電話(コールセンター)での問合せ対応、大会HPへのFAQ掲載
- ・ゲートウェイ案内所(関空・伊丹・JR京都駅)及び各ビレッジでの案内
- ・大会の情報を一元的に掲載した実用的なガイドブックの配布(大会受付時)

### 現状と今後の取組

○…現状 ●…今後の取組

#### 【ヘルプデスク【日・英・中(簡・繁)・韓】・コールセンター【日・英(大会期間中のみ)】】

- 2019年11月20日より大阪市内に開設。大会全般に係る問合せは組織委員会で、競技運営等に係る問合せは実行委員会で回答案を作成。回答を蓄積し、直接かつ迅速に回答する。
- 問合せ状況に応じて、スタッフ数および対応言語を随時見直す。必要に応じて大会HPの情報も修正・追加し、問合せせずに必要な情報が入手できるよう努める。

#### 【ゲートウェイ案内所(関空・伊丹空港、JR京都駅)各ビレッジ】

- ゲートウェイ案内所は、配置する施設・場所を選定。スタッフ・言語対応可能なボランティアの配置を計画。
- ヘルプデスクやコールセンターの問合せ内容の分析、観光情報等の収集を行うとともに運営マニュアルを作成し、案内内容を具体化。案内所でのウェルカム装飾の実施も検討する。

#### 【大会参加者向けガイドブック】

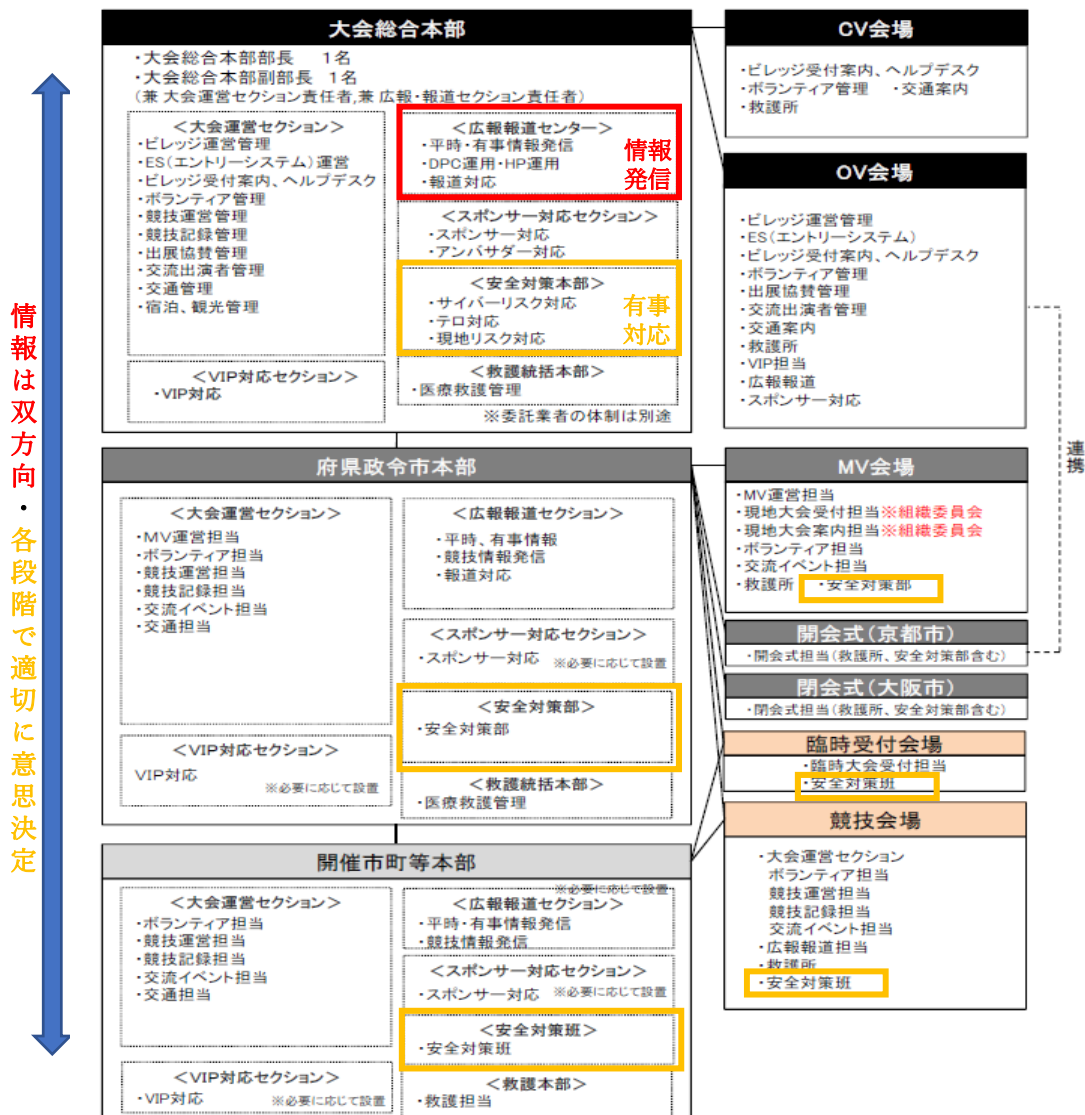
- 競技スケジュール・交通・競技会場レイアウト・観光情報・イベント情報など、掲載項目の大枠を決定した。
- 掲載項目に沿って、関西観光本部や府県政令市実行委員会等からも情報を収集し作成する。



# 第3章 大会の運営

## 大会総合本部

大会期間中の組織体系・連絡系統を明確にし、それぞれが必要な役割を果たす。



### 現状と今後の取組

○…現状 ●…今後の取組

- 2020年度は、大会総合本部実施計画案を策定し、大会開催中は、図のとおり組織委員会において「大会総合本部」（場所：大阪市（中之島センタービル））を設置するとともに、府県政令市実行委員会に「府県政令市実行委員会大会本部」を、開催市町等実行委員会には「開催市町等実行委員会大会本部」を設置することとした。組織委員会大会総合本部には必要なセクションを、安全対策本部、大会運営セクション、広報報道センター、VIP等対応セクション、スポンサー対応セクション、救護統括本部とし、業務内容や人員体制の検討を行った。
- 大会総合本部実施詳細計画を策定し、関係機関による大会運営本部実務者会議（※）において、本部業務内容や人員体制に関すること全般について情報共有を行う。その後、テストイベント、オープン競技において、運営シミュレーションを行い、改善点の洗い出しを行い、大会運営マニュアルを完成させる。

※安全対策、広報報道、大会運営及び競技運営等について、各本部が有機的に連携するための調整、検討及び協議を行うことを目的に設置・運用。

## オープニングビレッジ・マスターズビレッジ・センタービレッジ

### ◆オープニングビレッジ

開会式3日前から始まる大会受付にあわせ、下記の機能を持つオープニングビレッジを、開会式会場に隣接する京都市内の京都市体育館及び市民スポーツ会館に設置



#### <設置概要>

開設期間：2022年5月10日～5月13日

設置機能：大会受付、Tシャツ引換所、大会受付ヘルプデスク、大会案内、交通案内、救護所、ブース（協賛社・主催者・飲食）イベントステージ、交流の場、オフィシャルグッズ販売、控室

※各機能の配置レイアウト及び使用施設は今後計画

### ◆マスターズビレッジ

参加者の利便性を考慮し、各府県の交通要所9箇所に、大会参加者が競技会場の付近で大会受付を行える拠点を設置する。また、参加者同士、参加者と地域住民との交流の場とする。

名称	設置場所	開設期間（時間）
マスターズビレッジ福井	高浜町立和田公民館	5/14～22（10～21時）
		5/23～28（10時～21時） ※大会受付は無し
マスターズビレッジ滋賀	浜大津アーカス	5/13～29（10時～21時）
マスターズビレッジ京都	京都駅前地下街ポルタ	5/14～29（10時～21時）
マスターズビレッジ大阪	ポルタス広場	5/14～28（10時～21時）
マスターズビレッジ兵庫	デュオこうべ「デュオドーム」	5/13～29（10時～21時）
マスターズビレッジ奈良	奈良県外国人観光客交流館	5/14～23（10時～21時）
		5/24～28（10時～21時） ※大会受付は無し
マスターズビレッジ和歌山	わかちか広場	5/13～29（10時～21時）
マスターズビレッジ鳥取	風紋広場	5/13～28（10時～21時）
マスターズビレッジ徳島	徳島駅クレメントプラザ	5/14～29（10時～21時）

<設置概要> ※予定含む。

開設期間：左表参照

設置機能：

大会受付、案内、交流の場、協賛社ブース、地域魅力発信ブース、競技種目ブース、オフィシャルグッズ販売

※会場により大会機能の設置内容は異なる。

### ◆センタービレッジ

競技参加者・一般来場者への情報発信拠点として、また、交通の利便性の高い周遊の拠点として、グランフロント大阪の[うめきたSHIPホール]に各種機能を設置し、機運醸成を図る。



#### <設置概要>

開設期間：2022年5月13日～5月29日

開場時間：10:00～21:00（最終入場20:00）

設置機能：大会受付、大会案内/交通案内、大会情報の発信、全国に関する案内、オフィシャルグッズ販売、スポンサーブース

### 現状と今後の取組

○…現状 ●…今後の取組

- 各ビレッジの設置場所と基本的な機能を決定し、会場の整備運営方針等を策定した。
- 各会場の運営マニュアル、人員配置計画、備品計画を作成し、ボランティア研修を行う。  
センタービレッジについては、上記のほか、全国の情報発信の詳細について具体化し、実施する。



### 多言語対応

海外からの参加者が大会や開催地域を安全かつ快適に楽しめるよう、多言語対応の充実を図る。

#### 現状と今後の取組

○…現状 ●…今後の取組

- 多言語対応にかかる方針を定め、以下のとおり対応している。

[5か国語(日・英・中(簡/繁)・韓]大会HP、エントリーシステム、ヘルプデスク  
[15か国語対応(上記5か国語+越・馬・仏・独・伊・露・葡・西・泰・刺) 大会パンフレット

- 大会期間中の現場での言語対応は日・英対応を基本とするが、参加者の国籍を踏まえ、可能な限り語学ボランティア、翻訳機、翻訳アプリ、電話通訳サービス等の配備を予定している。
- 会場の案内表示方法について、組織委員会で統一的指針を作成のうえ各会場において対応する。
- 翻訳機、翻訳アプリ、電話通訳サービス等について、組織委員会は、各会場の来場者数に応じた必要数を検討・決定し、配備する。実行委員会は、各会場の通信環境を整備する。
- 特に応募しても集まりにくい言語に係るボランティアは、各会場で必要となる言語、人数等の検証を行い、必要数を算出し、全国外大連合に派遣依頼する。
- 災害発生時には、国外参加者は意思疎通の問題から要配慮者（災害弱者）になりうるため、通信が遮断された場合を想定し、音声放送や避難誘導について、具体的な方法を検討する。

### V I P対応

開閉会式やレセプションに招待する関係者、競技視察などを希望する関係者をV I Pと位置づけ、適切な対応を行うため、「V I P対応マニュアル」に基づき対応する。

#### 現状と今後の取組

○…現状 ●…今後の取組

- 開閉会式におけるV I P招待者、レセプションの開催日時、会場及び招待者の決定、V I P対応に係る全体スケジュールの作成、当日の動線、会場間の輸送方法、セキュリティ等の検討を進めてきた。大会の延期に伴う新たな会場等の決定を踏まえ改めて検討している。
- V I P対象者をいくつかのカテゴリーに分け、カテゴリー毎の対応を検討し、可能な限りシンプルな接遇計画を作成する。
- 受付及びアテンドに必要な人員を検討し、人員の確保及び人員配置計画を作成するほか、大会期間中の各対象者の行程の把握（必要に応じて宿泊や輸送を手配）と集約方法の整理を行う。
- 実行委員会からは、実行委員会役員名簿を提供してもらうなどしてV I Pの宛先を整理し、開閉会式とレセプションの招待状を送付する。
- レセプションについては開催概要を確定させ、演出内容、会場ゾーニング、人員配置等を検討し計画を作成する。
- 開閉会式が実施される実行委員会（京都市・大阪市）と連携し、V I Pのスケジュールを把握・想定しつつ、V I Pの受付場所、控所、着席エリア等の検討・調整を行う。

## 第4章 競技会の運営

公式競技全35競技59種目について、競技別実施要項の作成、IMGAの承認、国際競技団体によるテクニカルデリゲートの承認という手順で、競技会の器づくりを進めてきた。

エントリーの開始後は、各競技会の募集枠の管理、プログラムの作成、競技役員等の編成などの具体的な準備を進め、テストイベント等で検証しながら、大会本番に備える。

### <準備段階における推進体制>

組織委員会が示す大きな方針・スケジュールのもと、府県政令市実行委員会と競技会を主催する開催地市町実行委員会が緊密な連携を図り、NF、IF、IMGA等とも協議しながら、競技会づくりを進める。

### <大会本番における実施体制>

各競技会を主催する開催地市町実行委員会が中心となり、広く地域住民の積極的な参画と協力を得て、確実かつ効率的な競技会の運営を行う。



#### 【競技別実施要項の更新等】

- 各競技会の日程・募集枠等の詳細を定めた延期版競技別実施要項を、一部（4競技6種目）を除いてIMGAの承認を得たうえで2021年3月1日に大会HPで公開した。
- 競技別実施要項が未発表となっている競技について、2021年4月15日に1競技2種目を大会HPで公開した。残りの競技についても、できるだけ早期に大会HPで公開する。すでに公開した要項についても、必要に応じて適宜内容を更新する。

#### 【参加募集枠の設定】

- 日本人6割・外国人4割、男女比率1:1をめざす。募集枠は、競技特性を踏まえて実行委員会が設定し、一部の競技を除いて2021年5月13日に再エントリーを開始した。
- エントリー状況に応じて、性別・年代に偏りが生じ過ぎないように募集枠を種別ごとに調整。募集枠を超えた場合はウェイティングリストを運用し、追加募集等の検討を行う。

#### 【プログラム/組合せの作成・競技役員等の編成】

- 2019年度に各競技の枠組みを確認するため「競技別プログラム・組合せに関する調査」を実施。実行委員会に依頼し、回答を取りまとめた。
- エントリー状況等を踏まえた検証を行ったうえで、エントリー締切後速やかに作成する。

#### 【各競技会における組織体制の編成】

- 2017年度に「競技役員等編成基本方針」を策定し、2019年5月に各競技会の組織体制を確認するため、「競技役員編成数に関する調査」を実施した。
- 2021年度中に各競技会の組織体制についてシミュレーションを行い、その結果と選手・チーム名が入っていない競技日程・組合せ表に基づき、2021年度に競技役員等及び運営係員等の仮名簿を作成する。

#### 【競技用具の整備】

- 2017年度に「競技用具整備基本方針」「競技用具整備要項」を策定し、実行委員会で競技団体と協議し、競技会ごとの競技用具整備計画を作成し整備を進めている。
- 外国人選手向けの大型レンタル艇等、調達に課題があるものについては、競技団体等と調整のうえ、決定する。

#### 【表彰】

- 公式競技に係るメダルの所用枚数は、予備を含めて約4万枚の見込となった。
- メダルの所要枚数を精査するとともに、表彰式の開催方針を決定する。実行委員会がご当地リボンを作成することも可能とする。

#### 【ドーピングコントロール】

- 本大会におけるドーピング検査は尿検査のみとし、WMGの特性を踏まえ、ドーピング防止教育啓発活動に主眼を置き、取り組むことになった。
- 組織委員会にて、①検査計画を立案、②検査検体数を確定、③toto助成申請のとおり進める。

#### 【テストイベント】 ※新型コロナウイルスの影響等により、変更の可能性あり

- 実行委員会は、本番を想定したテストイベントの開催により、課題を明確にする。
- 本冊「テストイベント実施一覧」のとおり、各地で開催予定。

#### 【オープン競技】 ※新型コロナウイルスの影響等により、変更の可能性あり

- 2021年3月、1競技が追加され合計34競技を実施予定(本冊「オープン競技実施状況一覧」参照)
- 実行委員会において、実施要項やエントリー開始時期等を決定する。オープン競技のメダルについては、各実行委員会の判断で作成する。



## 第5章 ボランティア

大会の円滑な運営に向け、関係団体等を通じて様々な主体のボランティア参加を呼びかけるとともに、大会を通じてスポーツ活動を支えるボランティア文化の醸成を図る。

延べ60,000人を募集することとし、各実行委員会でこれまでのイベント等で連携実績がある団体等を中心に8割程度を確保し、残りをエントリーシステムからの個人申込で確保する予定。

なお、ボランティア従事者には、本大会の理解を深め、ボランティア活動における基本的なホスピタリティの育成、言語対応や障がいのある人への対応方法などの国際大会として必要な知識の育成を図るための研修を実施する。

### 現状と今後の取組

○…現状 ●…今後の取組

#### 【大会ボランティア運營業務実施計画書の策定】

- 「ボランティア業務指針」をもとに、募集、配置、研修などのボランティア業務の具体的な内容を示した「大会ボランティア運營業務実施計画書」を策定し、実行委員会に提示した。
- 各会場のゾーニング計画や人員配置計画等を基に、ボランティア運營業務実施計画の更新を行い、一旦は2021年10月を目途に確定させるが、大会参加者のエントリー状況を見て、必要に応じて修正を施す。

#### 【ボランティアの募集】

- 2019年11月20日に郵送・WEB等による募集を開始し、2020年2月1日から9月30日までエントリーシステムによるボランティアの募集を行った。エントリー再開後は、2021年5月13日から9月30日まで個人ボランティアの募集を行う。
- 各実施主体で、競技団体、自治体関連団体、大学・専門学校への協力依頼を本格化させる。組織委員会は、協力が得やすい団体や方法を各実施主体と共有しつつ、関連団体の情報誌への掲載などにより、必要なボランティア数の確保に努める。

#### 【ボランティア研修】

- 研修に向けた研修プログラムの構成案、研修計画を作成し、2020年6月～10月にエントリーシステムで申し込んだ個人ボランティア向けの選考ガイダンスを実施。2021年5月からの第2次エントリーシステムにより申し込まれた方に対しても適宜、選考ガイダンスを実施する。
- 連携団体である日本スポーツボランティアネットワーク（笹川スポーツ財団）と調整のうえ、研修内容を具体化し、共通研修・業務別研修・リーダー研修など、各種研修を実施する。

#### 【他団体とのボランティア協力・連携体制の構築】

- 組織委員会と連携協定を締結した関係機関のノウハウ・人材・ネットワークを活用し、募集を呼びかけている。（連携団体：JICA関西、ラグビーW杯2019組織委員会、東京オリパラ組織委員会、全国外大連合、笹川スポーツ財団）また、障がいのある方のボランティア参加を促すため、日本障がい者スポーツ協会や各府県の障がい者スポーツ協会と連携する。
- 担ってほしい主体・業務を具体的に提示しつつ、継続して取組む。（例：一般ボランティアでは対応が難しい言語を母国語とする参加者への対応を全国外大学連合に依頼する。）

#### 【ボランティアキット】

- ボランティアキットのデザインを決定し、より積極的な参加を呼び掛けるために、ポロシャツを全員に支給することとした。
- ボランティアキットの発注・配付などに向けて組織委員会及び各実行委員会で募集したボランティアの情報を集約し、必要数を確定する必要がある。



サコッシュ



ボランティアウェア  
(ポロシャツ)



タオル

## 第6章 開閉会式・交流の場

大会期間中、最も多くの参加者が集まる場であり、参加者の一体感の醸成を図るとともに、関西・日本の優れたコンテンツを世界に発信する。また、国外からの参加者や障がいのある人など多様な主体が快適に参加できる環境を整備する。

### 開会式

日程:2022年5月13日(金)

会場:京都市西京極総合運動公園

(式典:たけびしスタジアム京都)

参加想定人数:15,000人

開会式キャッチコピー:

はじまりは京都から〜スポーツで健康に、人生を楽しもう〜  
Kyoto, where all things start ~Love Sport, Live Well, Enjoy Life~

式典プログラム(案):

ウェルカムステージ、オープニングパフォーマンス、パレード、開会宣言、IMGA旗の掲揚、オフィシャルスピーチ、選手宣誓、フィナーレアトラクションなど



### <フラワーリレー>

開催府県政令市の取組が1つに集まり、開会式で結実するというストーリー性を表現するとともに、大会への関心と期待を呼び起こすため、13府県市にて各シンボルフラワーを用いた「パスセレモニー」を実施

### 閉会式

日程:2022年5月29日(日)

会場:丸善インテックアリーナ大阪

(式典:メインアリーナ)

参加想定人数:10,000人

閉会式キャッチコピー:

—ここから始まる、新しい感動—  
Osaka-Kansai and Beyond

式典プログラム(案):

プロローグ、オープニングパフォーマンス、オフィシャルスピーチ、ハンドオーバーセレモニー、フィナーレアトラクションなど



### 現状と今後の取組

○…現状 ●…今後の取組

- 京都市・大阪市実行委員会と会場の選定、コンセプト、全体構成等について検討・決定した。
- 式典プログラム・演出等の具体的な内容の検討を進め、大会HP等で情報発信していく。あわせて、VIPの臨席対応、手話通訳の確保、動線整理など、誰もが楽しめる環境を整える。



### 交流の場

本大会は参加者同士や地域住民との『交流』を楽しむことが醍醐味であることから、メインの交流拠点を関西の交通要所に設置し、開閉会式と連動したイベントを展開する。

ポストコロナの環境においては、各競技開催地域でリアルに交流できる機会とICTを活用してバーチャルに交流できる機会を組み合わせ、参加者の安全・安心を確保する取組を行い、参加者に一体感を感じてもらえる交流の機会を創出する。

#### オープニングEXPO

開会式や大会受付期間中に来場する大会参加者が、初めて今大会に触れる場所であることから、できる限りの「おもてなし」を実施する。

**実施場所：**京都市西京極総合運動公園内

**主なコンテンツ（案）：**飲食ブース、イベントステージ、各種体験エリア など

#### マスターズビレッジ

各地域が独自の趣向を凝らして、各地域の魅力を体感してもらえる場を提供する。

**設置場所：**各マスターズビレッジ、近隣会場等

**主なコンテンツ（案）：**飲食ブース、イベントステージ、各種体験エリア など

#### 競技会周辺等

競技参加者等が、競技終了後に移動することなく「交流」を楽しめるように、競技会場の既存施設の活用、屋台、キッチンカー等の出店により飲食スペースを併設する。

#### フィナーレイベント

閉会式に一般の方も参加いただけるイベントを実施し、閉会式が大会の有終の美を飾り、生涯スポーツ、スポーツツーリズムの意義が世間に浸透し、レガシーとなるよう盛り上げる。

**実施場所：**丸善インテックアリーナ大阪周辺 **主なコンテンツ（案）：**検討中

#### ICTを活用したバーチャルな交流機会

広域開催の距離感を埋め、安全・安心を目指した交流を展開。大会開催前から参加者や地域住民等が「観る」

「応援する」「関わる」ことができる仕組みを構築し、機運醸成を図る。

#### 「WMG. ステーション」

開閉会式のライブ中継、競技動画、観光・グルメ動画、参加者の投稿動画などを配信。ライブ配信では、コメントを多言語で表示し、参加者が動画を見ながら言語の垣根を越えて交流できる場を創出する。

#### 「多言語翻訳交流事業（Kotoznaの活用）」

複数言語のメッセージを相手の母国語に翻訳して送受信できるアプリを活用し、非接触型による交流を実現する。競技ごとのコミュニティ（掲示板）の開催前展開や期間中の緊急情報の発信伝達に役立てる。

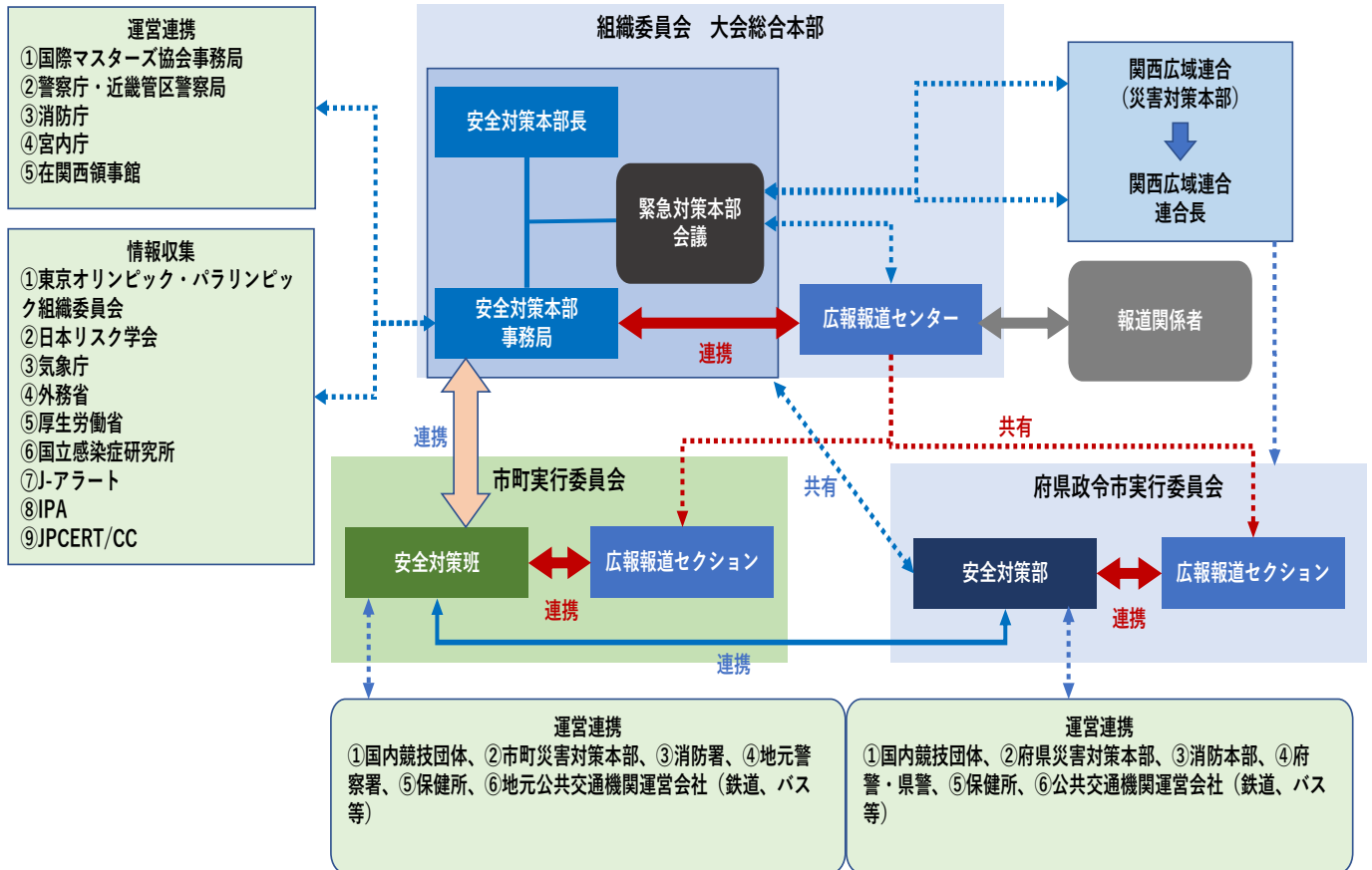
### 現状と今後の取組

○…現状 ●…今後の取組

- 各交流の場の場所・コンテンツの大枠について、実行委員会等関係機関と検討・協議した。
- 各交流の場のコンテンツを更に具体化し、確定したものを随時HPに掲載する。
- 年齢、性別、国籍、障がいの有無に関わらず様々な参加者が交流を楽しめるよう、イベントの内容と、会場の環境づくりの両面から配慮する。
- マスターズビレッジについては、それぞれの地域が特色を活かしつつ、大会全体としての均一性が保てるよう、組織委員会と実行委員会で調整を行う。

## 第7章 安全対策・危機管理・医療救護

「海外から多数の参加者が集う」、「高齢者や障がいのある方が多数参加する」、「広域で開催する」「複数の主体が連携して大会を運営する」という本大会の特性を踏まえ、災害や事故、テロなどのあらゆるリスクを想定した対策を講じる。また、医療機関、消防等の関係機関と綿密に連携し、必要な医療救護対策を講じる。



### 現状と今後の取組

○…現状 ●…今後の取組

- 組織委員会において、全ての会場において想定されるリスクを分析・整理し、「安全対策・危機対応にかかる全体指針」として取りまとめ、実行委員会と共有するとともに、競技会場における「安全対策マニュアル基準書」の作成を行った。
- 個人情報保護（サイバーセキュリティを含む）については組織委員会、実行委員会共通のプライバシーポリシー、規程を策定、運用を開始した。
- 大会運営本部実務者会議の中で、各実行委員会におけるリスク対策の取組等を共有しつつ、テストイベントやプレ大会での運用を踏まえた改善実施と情報共有を行う。
- こうした取組と並行して、大会保険への加入、全ての会場の安全対策事項と中断・中止基準の策定、有事広報訓練などを行う。

### 国内誘客

対象を「アスリート層(競技団体登録者)」と「レクリエーション層」の2つに分類し、ターゲットを絞ったプロモーションを展開する。

### 海外誘客

過去大会参加者が多いオセアニア・北米・ヨーロッパ圏へのアプローチと、近接するアジア圏へのアプローチの2つの視点からプロモーションを展開する。

※当面は国内の参加者獲得に集中することとし、海外については、2021年秋以降の新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら取組を進める。

### 現状と今後の取組

○…現状 ●…今後の取組

#### 【国内誘客】

- アスリート層へは、大規模総合競技大会や競技別マスターズ・シニア大会での誘客活動や、競技団体を通じた競技者への広報を実施した。
- レクリエーション層へは、過去大会参加者からのWMGの魅力発信など、大会への興味・関心を高める取組を行うとともに、経済団体を通じて企業等に従業員の参加を呼びかけた。
- アスリート層へは、競技種目ごとのエントリー状況・特性を分析し、JSPOやNFの協力を得ながら誘客活動を展開していく。
- レクリエーション層へは、まだ知名度が低いため、スポーツ系雑誌等メディアでの露出獲得活動、スポーツ系YouTuber等のインフルエンサーの活用等により広報活動を展開していく。また、関西圏だけでなく全国規模での企業や自治体への団体エントリーへの協力依頼を行う。

#### 【海外誘客】

- 海外リピーター層(特にオセアニア、北米、ヨーロッパ)には、海外での類似大会において競技者に直接アプローチした他、現地スポーツ機関と、誘客連携について関係構築を図った。
- アジアについては、これまで大会参加が極めて少ないことから、マスターズ競技統括団体等を通じたアプローチを中心に行い、新規参加者層への誘客活動を展開した。
- 国別・競技別のエントリー状況を分析しながら、柔軟な誘客活動に取り組む。
- ビザ取得手続きが大会参加の妨げにならないよう、希望者には参加受付証明証を発行し、ビザ申請のサポートを行う。 ※ビザ取得が確約されるものではない。

### 交通

各競技会場へのアクセスや、開催地域の観光周遊がスムーズにできるよう、シャトルバスの運行や交通パスにより移動手段を提供するとともに、参加者に交通情報を分かりやすく発信する。府県市をまたぐ広域交通は組織委員会が、府県市内における域内交通はそれぞれの実行委員会が担い、参加者の利便性向上を目的とした取組を実施する。

#### 現状と今後の取組

○…現状 ●…今後の取組

#### 【交通パス】

○「オリジナルKANSAI ONE PASS」「オリジナル」JR関西ワイドエリアパス」の2種類の交通パスを作成し、海外参加者には全員に提供、国内参加者にはオプション販売する。

##### オリジナルKANSAI ONE PASS（近郊分）

交通系ICカードをベースとし、関西主要交通各社を切符の買い替えなしで利用可能。

有効期間：無し 国内参加者販売価格：大人 3,000円（デポジット500円を含む）

##### オリジナル」JR関西ワイドエリアパス（広域周遊分）

開催エリア内の」JR山陽新幹線（ひかり・のぞみのみ）、特急列車、快速・普通列車の普通自由席に、有効期間内であれば何度も乗車可能

有効期間：2022年5月10日～6月6日内の連続した7日間 国内参加者販売価格：大人 7,000円

- 「」JR関西ワイドエリアパス」…2022年1月に発注枚数確定、同年4月納品予定  
「KANSAI ONE PASS」…ICカード原本完成。2021年9月頃入金作業、2022年4月納品予定  
「JRバス（徳島エリア）」…2021年8月デザイン決定。2022年1月に枚数調整、同年4月納品予定

#### 【交通インフォメーション】

- 各競技会場、各ビレッジへの最適な交通ルートを記載した交通インフォメーションを日本語・英語で作成し、大会HPに掲載。適宜情報を更新。
- 2021年10月頃にエントリー状況を踏まえ、シャトルバスの運行詳細について追記。

#### 【広域シャトルバス】

- 重複参加が想定される刈インターリング・加（スプリット、マリン）・バレーの3競技において、競技会場間を結ぶシャトルバスの運行を決定。2020年2月に運行範囲について大会HPで公開。
- 交通パスでの移動が困難な大阪駅～徳島駅間の移動を補うため、参加者専用シャトルバスの運行を決定。（大会期間中毎日）
- 実行委員会と協議し、発着地・運行本数等を設定。エントリー状況を踏まえ詳細情報を発信。

#### 【域内シャトルバスの調整（シャトルバス集約センター）】

- 各開催エリアで利用されるバスの充足調整等のため、組織委員会が借上を行うことを決定。
- 借上げが必要なシャトルバスを調査・把握し、調整。

#### 【交通案内所の運営/交通に対する問合せ対応】

- オープニングビレッジ及びセンタービレッジへの交通案内所の設置を決定。各ビレッジの案内所での交通に関する質問へも対応。
- 案内所の対応内容を精査し、人員配置計画を策定。

#### 【トータルモビリティサービス「モビONE」の制作】

- 参加者の利便性向上、ツーリズム促進のための専用アプリ及びWEBを展開。
- 2021年4月より掲載する情報コンテンツを追加。2021年夏頃よりアプリの運用を開始。



### 宿泊

競技開催地に訪れる参加者に、競技会場近郊等での宿泊施設を過不足なく提供するため、大会オリジナルの宿泊予約サイトでの申込受付や、競技会場地毎にパートナーホテルを設定する。

また、これらの機能を発揮するため「WMG宿泊センター」において、宿泊施設が不足するエリアや早期予約への対応などについて宿泊施設関係団体や宿泊施設と調整を行う。

#### 現状と今後の取組

○…現状 ●…今後の取組

##### 【大会参加者への宿泊施設の提供】

- 下記機能を有する大会専用宿泊予約サイトを大会HP内に構築。2021年5月13日から運用再開。
  - ・ 競技や観光地から最適な宿泊施設を検索・予約・決済できる機能
  - ・ 競技開催地毎におすすめする「パートナーホテル」を検索・予約・決済できる機能
- WMG宿泊センターにおいて大会エントリー状況やパートナーホテルの予約状況等を確認しながら、新規追加や客室の追加確保等専門業務を実施し、専用の予約サイトへ反映する。
- ネット予約への対応が促進されるよう、地域の関係団体や宿泊施設、実行委員会等への働きかけを行うなど、宿泊施設検索サイトの予約プランの掲載充実に取り組む。

##### 【大会関係者の宿泊施設の確保】

- 大会・競技運営に欠かせない大会関係者（大会役員、競技役員、審判員等）については、宿泊施設を確保する必要があるため、一括して宿泊施設の事前確保を行うこととした。
- 競技別に必要な宿泊予定者数を精査し、客室を確保すべく、各宿泊施設と調整を行う。

### 観光

開催各地域が取り組む観光施策の拡大を図りながら、「大会ならではの」特別体験プランを造成し、参加者の満足度を向上させるとともに、新たなスポーツツーリズムのモデルを提案する。

こうした取組の成果を大会終了後も引き継ぎ、関西全体の観光振興、地域振興への貢献を図る。

#### 現状と今後の取組

○…現状 ●…今後の取組

##### 【大会専用観光サイトの構築・運用】

- 開催各地域の体験プランを一元的にとりまとめ、テーマや開催都市から検索でき、予約・決済までワンストップで可能な観光サイトを構築した。（2020年2月1日から運用開始、大会延期に伴い10月末から大会HPからのアクセスを一時停止）
- 大会HPからのアクセスを2021年5月13日から運用再開し、情報発信を行う。

##### 【着地型観光商品の造成】

- 既存の観光商品に加え、WMGオリジナルの体験プランを各開催府県市において造成し、各実行委員会や観光部局、造成主体となる事業者に対して商品造成に向けた支援を実施した。  
※2021年3月末時点で95件を造成
- 再度参加者目線で点検を行い、今後造成するものとともに実行委員会への支援を強化する。  
2021年12月末までに約150件とする。（1競技開催地あたり3件程度を目安）

##### 【観光情報及びホストタウン情報の発信】

- 開催各地域の観光情報の発信や全国都道府県等と連携した各地域の観光情報及び東京2020オリパラ・ホストタウンと連携した観光情報等の発信内容、方策について検討を行った。  
大会HPの活用、ブース出展観光プロモーションビデオの放映等を通じ観光情報を発信。
- ホストタウン交流イベント等について情報発信やPRを行う。



**大会準備期間中のPR・パブリシティ**については、大会公式ホームページ・SNS等各種媒体を活用した情報発信を通年で進めつつ、テストイベントやオープン競技の開催といった取組により、**大会の機運醸成を図る。**

あわせて、節目イベントの開催やTV・ラジオ等での大会告知など、時宜にかなった集中的な取組や、全国メディアへのキャラバン活動、スポーツ関連雑誌等とのタイアップなどメディアとの連携を強化することにより、大会に対する**知名度の向上をめざす。**

**大会開催期間中の広報・報道**については、「広報報道センター」を設置し、参加者及びメディアへの円滑な情報発信を行う。

### 現状と今後の取組

○…現状 ●…今後の取組

#### 大会準備期間中のPR・パブリシティ

##### 大会機運の醸成① 各種媒体を活用した取組

###### 【コアグラフィックを活用した広報媒体の制作・活用】

- 大会を一貫性のある雰囲気演出するため、装飾デザインのベースとなるコアグラフィックを作成。ポスター・チラシ・のぼり等に反映し、実行委員会と共有。各種イベントで活用した。
- コアグラフィックを開催地でのサイト・レシリング等にも広く展開するとともに、メダルストラップ、大会参加者に配布する参加者キット等に広く展開し、大会の魅力を世界に発信していく。

###### 【ビジュアル、デザイン等を統一した広報媒体の制作（ポスター・チラシ・動画制作）】

- 大会イメージを統一したポスター、パンフレット、大会紹介動画を制作し、スポーツイベント等で配布。「のぼり」「横断幕」の統一デザインを作成。実行委員会に提供した。
- 引き続きポスター、チラシ、PR動画等の広報媒体の制作により、大会に対する知名度向上を図っていく。

###### 【大会公式ホームページ・SNS等による情報発信】

- 大会HPの情報(各競技種目詳細、交通・宿泊案内、観光情報等)を大きくリニューアルした。SNSでは、開催地域のスポーツイベント等のWMG関連情報を可視化し、情報拡散を促した。
- 開催市町の魅力を国内外に発信するコンテンツ「ゴトスポ」を拡充するとともに、テストイベントやオープン競技に関する情報発信を行い大会本番に向けた盛り上がりを紹介する。

###### 【オフィシャルグッズの販売】

- オンラインショップを2020年4月に開設し、各ビレッジでの販売計画を作成した。また、グッズの充実を図るため、各実行委員会に地元特産品の商品化を依頼した。
- 各ビレッジ内における販売スペース、在庫管理スペース、販売体制を確定させるとともに、商品物流の整備を進める。

###### 【情報発信・収集、交流の場となるプラットフォームづくり（Team Do Sports Portal）】

- スポーツ愛好家の交流を促し、スポーツ大会等への登録、参加申込、対戦相手やメンバー募集等のサービスを提供するポータルサイトを開設。大会の本エントリーに先立ち、サイト登録者のみを対象に、アーリーエントリーを受付けた。
- 各競技団体や自治体でのTDS P周知を図り、オープン競技を含めWMGと連携した活用を拡げるため、認知、周知活動を展開する。  
引き続きコンテンツの魅力向上、大会及びサイトのPRに努め、サイト利用者の拡大を図る。

### 大会準備期間中のPR・パブリシティ

#### 大会機運の醸成② 時宜にかなった集中的な取組

##### 【 節目イベントの開催 】

- 決起大会、1000日前イベント、2年前記念イベント、首都圏シンポジウムなど、節目となる時期に応じたトピックを取り上げ、機運醸成を図りつつ、メディアを通じて広く発信した。
- 引き続き実行委員会と協力し、節目に応じたイベントを実施する。（200日前、100日前等）大会関係者が一同に会し、大会の成功に向けたイベントを実施する。

##### 【 大会アンバサダーの活用 】

- 発信力のある著名人等に働きかけ、アンバサダーの拡大に取り組んだ。  
また、組織委員会及び関係団体が実施するイベント等への派遣により大会の魅力を発信した。
- 開催地域を応援するアンバサダーを増強する他、アンバサダー自身のSNS上での大会の発信を呼び掛ける。また、競技参加宣言等により参加意欲の向上を図る。

##### 【 公共交通機関との連携によるPR 】

- エントリー開始に際し、関西の公共交通機関と連携し、駅構内や車内での広告を実施した。
- 関係機関の協力を得て、それぞれの節目に応じた広告を空港や主要駅等で掲出する。

##### 【 公式競技メダルデザイン 】

- メダルデザインを公募（応募：83作品）。有識者等による審査会を実施し、最優秀デザインを決定した。
- 新型コロナの感染状況を見ながら、適切なタイミングを判断して公表する。

#### 大会機運の醸成③ 知名度向上

##### 【 メディアパートナーとの連携によるPR 】

- 放送局・新聞社・デジタルメディアとの連携により、CM・ラジオ・新聞・WEBを通じてPRを実施。
- 引き続き関係機関と連携を図り、時機を捉えて、様々な媒体を活用して知名度向上を図る。

##### 【 メディアリレーション活動 】

- 首都圏・在阪メディアへのキャラバン活動を実施するとともに、スポーツ・健康雑誌・WEBメディア、地方新聞社とのタイアップにより、全国的な露出拡大を図った。
- 引き続きこれらの活動に取り組み、露出拡大、知名度向上からエントリーへの誘導につなげる。

### 大会開催期間中における広報・報道

- 大会当日の情報受発信や、メディア対応に関する広報の基本方針、役割分担などをまとめた「大会広報・報道対応ガイドライン」を作成した。
- 上記ガイドラインをもとに、実行委員会毎にカスタマイズした「大会広報・報道対応マニュアル」を作成する。また、2022年4月までを目途に「大会本番時取材計画」を作成する。
- 大会総合本部内に「広報報道センター」を設置し、メディア向けにニュース性の高い情報や大会の魅力を発信するとともに、取材対応を行う。
- メディアへの情報提供を円滑・迅速にするため、事前登録したメディアは、様々な大会関連情報を入手できる、大会情報を一元的に集約した「デジタルプレスクラブ」を構築する。

## 第11章 企業協賛

2014年4月1日～2017年12月31日を第一期協賛期間とし、関西の経済団体会員企業を中心に協賛を依頼。2018年1月1日～2021年12月31日までを第二期協賛期間とし、協賛に対する適切な価値を提供するスポンサー制の導入、組織委員会が集める組織委員会スポンサー、各実行委員会が集めるローカルスポンサーなどの仕組みを構築しながら、首都圏も含めた協賛活動を展開。引き続き、知名度の向上を図り、更なる協賛の獲得を図るとともに、協賛メリットを提供する。

### 現状と今後の取組

○…現状 ●…今後の取組

- 積極的な協賛セールスを展開した結果、第二期協賛においては、合計53社の協賛を得た。
- 更なる獲得に努めつつ、実行委員会のローカルスポンサーの獲得をサポートする。
- メジャーパートナー等への協賛メリットとして付与している優先交渉権に基づき、スポーツ用具やAV機器などの情報を実行委員会に提供するとともに、各種広報物や会場装飾への協賛社名露出等の管理を行う。また、アンブッシュマーケティング防止に対応する。

## 第12章 大会レガシーの創出

### レガシー創出に向けた取組

大会の成果を次代につなぐため、大会の準備段階から関係者と連携し、能動的にレガシーの創出に取り組む。あわせて、誰もが参加できる「インクルーシブな考え方を取り入れた大会づくり」を進め、大会終了後もインクルーシブな考え方や仕組みがレガシーとして継承されることを目指す。

#### 【レガシー創出に向けた基本視点】

「新たなレガシーの創出」「相乗レガシーの協創」「ローカルレガシーの創出とグローバルレガシーの誘発」「レガシーの共同実現」「インクルーシブな考え方の推進 <重点事項>」の5つの視点を意識してレガシーの創出を図る。

### 現状と今後の取組

○…現状 ●…今後の取組

#### 【レガシー創出の方向性】

レガシー基本構想に掲げる「個人を彩るレガシー」「地域を創るレガシー」「文化を深めるレガシー」「世界を拓けるレガシー」「未来を育てるレガシー」の5つのテーマごとにレガシー創出に取り組む。

#### (1) TSUNAGUプログラムの展開

- 地域や団体が実施する様々な活動を通じて、本大会の機運醸成、知名度向上、参加者獲得を目的として「TSUNAGUプログラム」を実施。活動の内容を大会HPで紹介するなど、一緒に大会を盛り上げる取組を推進している。【登録件数：976件、人数：7,542,774人（2021年3月現在）】
- 実行委員会や連携協定締結団体等と協力し、事業登録の促進により大会の一層の盛り上げを図る。

#### (2) TSUNAGU推進事業（地域のスポーツイベント等へのアスリート派遣事業）

- (一社)アスリートネットワークとの連携により、各地域でのスポーツイベント等にトップアスリートを派遣し、競技実演やスポーツ体験教室等、2021年3月までに18事業を展開。大会の機運醸成と、地域のスポーツ文化の育成に向けた取組を行った。
- 新型コロナウイルスの感染状況を踏まえオンライン等を活用した事業展開をはじめ、実行委員会や連携協定締結団体等と協力し、多様な人が様々な場面で参加できる場づくりに取り組む。

### （3）組織委員会のレガシー継承事業

#### ① WMG大会後のスポーツ大会としての継承

- 組織委員会、関西広域連合、関西経済連合会の3団体において、WMGのレガシー大会・イベント等の招致・開催に向けた検討を行った。また、WMG開催地域で大会終了後のスポーツ振興・地域振興を見据えた実施競技の継続開催に向けた具体化を進めている。
- 関西マスターズスポーツフェスティバル、関西シニアマスターズ等、継続開催に向けた仕組みづくりの具体化を図る。

#### ② スポーツ文化ツーリズムの推進に向けた取組の継承

- 広域開催の特性をいかし、組織委員会が構築したアプリケーション（ソフトウェア）等、ICTを活用した取組を展開した。
- 組織委員会が構築したアプリケーション（ソフトウェア）等の継承先の検討、及び継承方法や継承後の活用方法について検討を進める。

#### ③ 連携協定締結団体や関係団体と連携した取組の継承

- 大会の参加促進、ボランティアとしての大会参加、ボランティア育成等を効果的に実施するため14団体と連携協定を締結した。また、「関西スポーツの日・月間」や「関西スポーツ応援企業表彰」等の顕彰制度と連携した取組を行った。
- 大会をとおしたノウハウがいかせる仕組みや、IMG Aや企業・団体等と築いてきたネットワークを大会後に残していく取組を進める。

## 経済波及効果

WMG2021関西の開催が、日本全体、地域の経済・産業活動に及ぼす効果の算出を行う。2017年8月には、大会運営費や参加者の消費支出による経済産業活動に及ぼす「大会開催効果」及び大会終了後も継続的に開催されるレガシーイベントや各地域への誘客・観光消費拡大による「大会レガシー効果」の二つの考え方から経済波及効果を推計した。大会終了後には、開催期間中の参加者や同伴者の宿泊場所や動向等の実績に応じた経済波及効果の算出を行う予定。

<経済波及効果の概要（2017年8月算出）>

（単位：億円）

	関西広域連合圏域	その他地域	全国
大会開催効果	913	548	1,461
大会レガシー効果	3,770	7,098	10,868
総計	4,683	7,646	12,329

<試算概要>

[分析対象期間]

大会開催効果：2021年5月15日から30日

大会レガシー効果：2021年6月から2029年12月



### インクルーシブな大会づくり

誰もが参加できる生涯スポーツの大会として、障がい、年齢、国籍、性別に関係なく、あるいはそれぞれの特性に配慮し、「競技の運営」と「大会の運営」の両面からインクルーシブな大会づくりを進める。また、これらの取組が、大会後も生涯スポーツ大会等で活用されるよう、関西から全国に向けて、先駆的な取組として発信する。

#### 現状と今後の取組

##### 【競技の運営】

障がい者の競技参加について、生涯スポーツのモデルとなるよう、以下の取組に挑戦する。

- 原則として、健常者と障がい者の競技を同じ開催期間・同じ会場で実施
- 障がい者部門（13競技19種目）の実施
- （一般部門への）障がい者の参加に配慮する競技（12競技20種目）の実施

##### （1）一般部門への障がい者の参加に配慮する具体的な内容について

競技中に必要な配慮について競技種目毎に内容を決定、競技別実施要項へ記載した。

今後、テストイベント等で検証し、参加者からの配慮にかかる問合せや要請に対応する。

##### （2）募集枠の設定・参加促進について

「障がい者部門」は競技特性に応じて募集枠を設定し、必要な試合数及び参加人数を試算した。（「障がい者の参加に配慮する競技」は一般部門への参加のため募集枠を設定せず）今後、関係機関と協議のうえ、最終的な募集枠を決定する。また、各障がい者スポーツ競技団体と連携し、障がい者選手の参加を促進する。

##### （3）障がい者部門のクラス分け区分及び作業について

障がい者部門でのクラス分けは、各国際競技連盟・国際障がい者団体が定める「クラス分け規則」を基準として、競技種目毎に定めることとした。

障がい者手帳によるクラス分けなど、参加者に負担の無い柔軟な対応も含め、日本障がい者スポーツ協会等関係機関と協議を重ね、詳細を決定する。

##### 【大会の運営】

以下の5つの視点から、それぞれの参加の促進、参加に配慮した具体的な取組を実施する。

##### （1）障がい者の参加を促進する取組、参加に配慮した取組

（例）会場の案内表示の工夫、車いす観覧席・スロープ・多目的トイレの設置、手話通訳の配置

##### （2）様々な年齢層の大会参画を促す取組

（例）小中学校の総合学習等でのWMGにかかる調査発表、校外学習での現地での応援・交流

##### （3）外国人の参加を促進する取組、参加に配慮した取組

（例）会場案内表示（日・英対応）、翻訳アプリ・電話通訳サービスの活用、Wi-Fi環境の整備

##### （4）女性、LGBTの参加に配慮した取組

（例）男女比を考慮した十分なトイレ基数の確保、臨時更衣室の設置などの工夫

##### （5）全体の交流を促進する取組

（例）車椅子での参加に配慮した開会式でのパレードの実施、開会式典での手話通訳の配置、誰もが楽しめる交流の場の環境整備及びイベント内容の工夫

### 大会報告書

開催準備や大会運営の記録を残すとともに、大会の成果やレガシー創出に向けた取組を広く周知・活用するため、参加者や外部有識者の声を採り入れた大会報告書を作成し、将来の生涯スポーツの発展等につなげる。